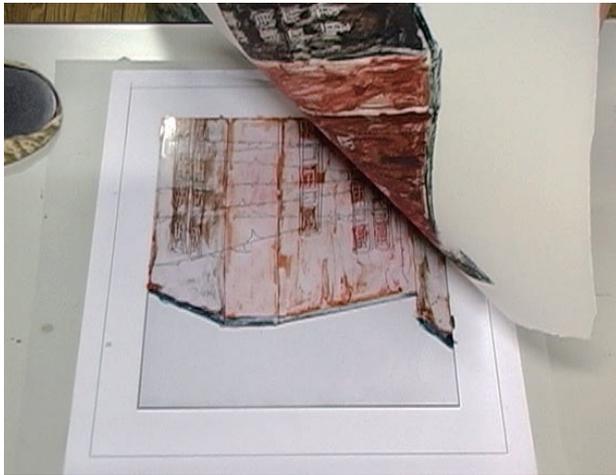




# モノタイプ

ものたいぷ



## 概要

モノタイプは、版に直接インクや油絵具などの描画材を用いて描画し、その上に紙をのせて圧力をかけることにより、版に描画したイメージを紙へと転写する版画技法で、モノプリントとも呼ばれることがあります。

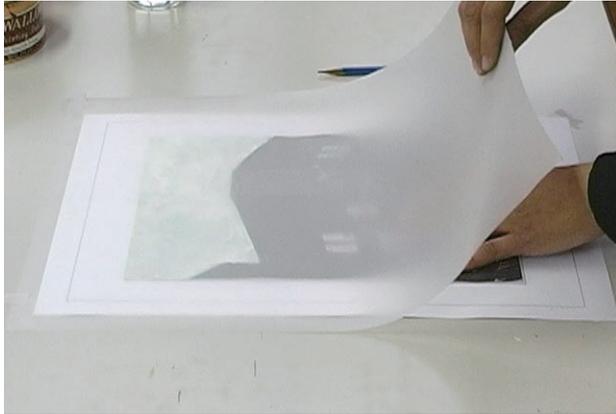
モノタイプの「モノ」はギリシャ語である MONOS（モノス）から由来した言葉であり、この MONOS は「ただ一つの」という意味を持っています。このことから分かるようにこの技法は、版から同じイメージが一枚のみの印刷しかできないことが大きな特徴です。

このモノタイプ技法は、平版、凹版、凸版、孔版などの版画とは異なり複雑な製版の必要がなく、自由な描画を行うことができます。この技法を取り入れて作られたものでは、17世紀にイタリアのカステリオーネが制作した作品が最も古く、作品は現在でも保存されています。18世紀に入るとウィリアム・ブレイクが、19世紀には、ドガやゴーギャンなど様々な作家たちがこの技法を用いて作品を残しています。また20世紀には、ピカソ、マティス、近代ではフランク・ステラ、ジャスパー・ジョーンズなどの多くの著名な作家たちがこの技法を用いて作品を制作し、現代でも様々な作家たちがモノタイプ技法を使って制作を行っています。モノタイプは版画の特徴である複数性という原則から外れるため、過去には版画の範疇からはずされる時もありました。しかし現在ではそのようなことも少なくなり、版表現また版を使用した絵画表現の手段として、この技法は使われています。

モノタイプはいくつかの制作方法がありますが、最も基本的な技法は、ガラス製やアクリル、塩化ビニルなどの樹脂製、金属製の板に、油性インクや油絵具などの描画材を用いて直接絵を描き、その上に紙をのせてバレンなどで圧力をかけて刷りとるものです。この作業を何度か繰り返し行うことで、色を刷り重ねた作品をつくることもできます。また、同様の板にローラーでインクを均一にのばし、その上に紙をのせ、紙の上から描画を行うことで板から紙へインクを転写するトランスファー技法もモノタイプ技法のひとつです。モノタイプ技法は、使用する紙の種類によってインクや絵具のマチエールが変化するため、様々な紙に試してみるとよいでしょう。

あ  
か  
さ  
た  
な  
は  
ま  
や  
ら  
わ  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z  
数字

## モノタイプ技法



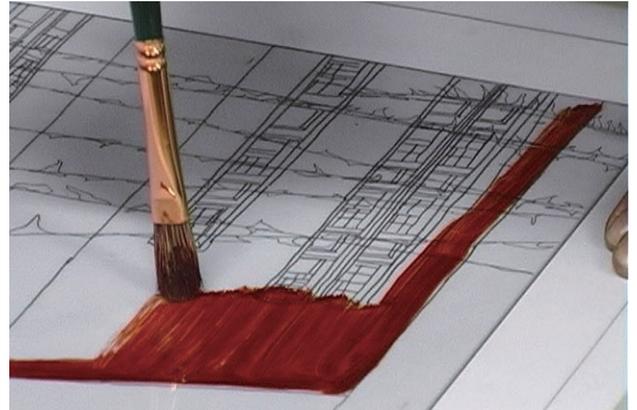
手順1. あらかじめ下絵と見当を用意しておき、見当、下絵、マットフィルムの順に重ねて置きます。



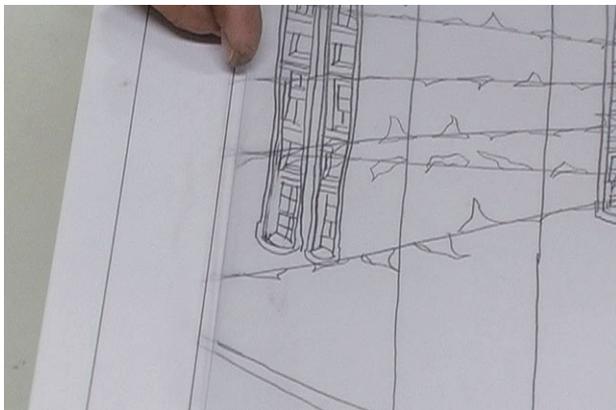
手順4. 使用するリトグラフ用インクや油絵具をパレットで調色し、テレピンなどで粘度を調整します。



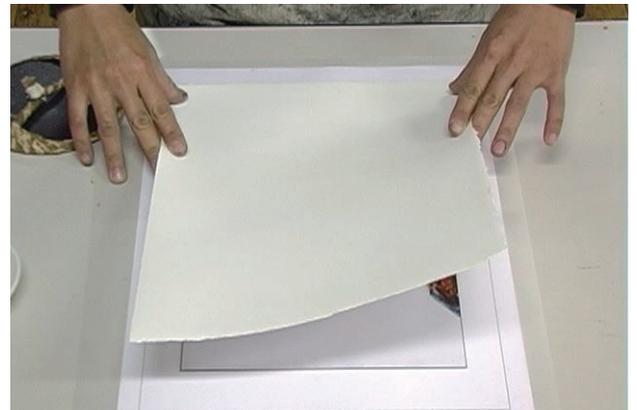
手順2. マットフィルムに、紙を置くカギ見当と下絵を描き写しましょう。



手順5. 調色したインクは、フィルムに書き写した下絵にそってアクリル板に描画するようにのせていきます。



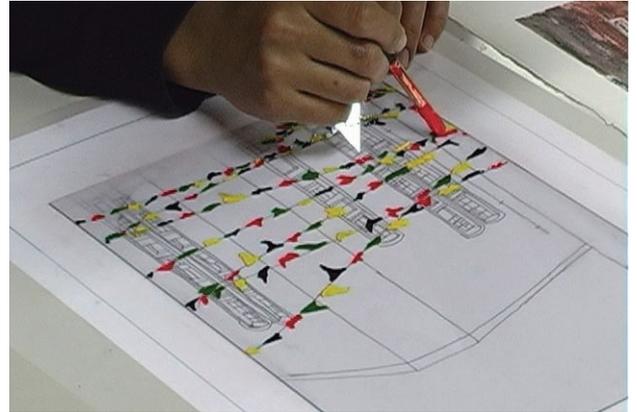
手順3. 下絵を描き写し終えたら、下絵を取り出してマットフィルムの上にアクリル板（裁断したカードケース可）を置きます。



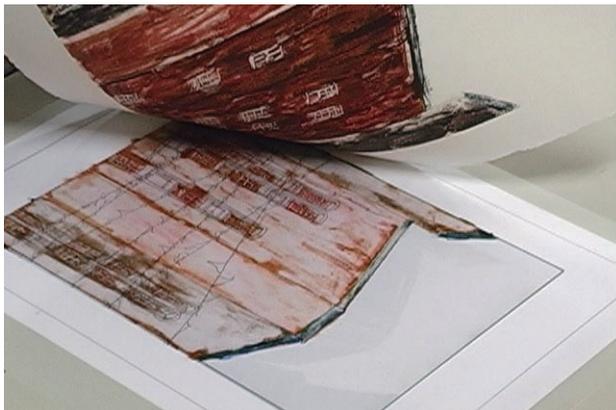
手順6. 下絵の通りインクのをせたら、見当に合わせて板の上に紙のをせます。



手順 7. 紙の上からバレンを使って圧をかけます。



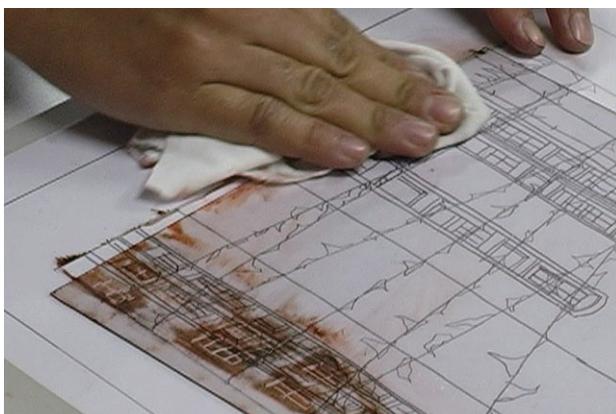
手順 10. 再度インクをアクリル板にのせてバレンで刷り取りま  
す。



手順 8. 紙を版からゆっくりはがします。



手順 11. 紙を版からはがしたら完成です。



手順 9. 版を重さねる場合には、プリントクリーナーとウエスで  
残ったインクを拭き取ります。